

# 都市における子育てサポートシステムの機能と課題

北海道大学 工藤遥

## 1 目的

都市化や小家族化を背景に、地縁・血縁に基づくインフォーマルな子育て支援が縮小し、都市の核家族世帯では、乳幼児のケアの中心的責任を担う母親の育児に多くの困難が生じている。こうした中で、政府による制度・政策的な子育て支援の議論とともに、「育児ネットワーク」（松田，2008）といった社会的ネットワークが行う関係的な子育て支援の重要性が指摘されている。本報告の目的は、札幌市における質的調査をもとに、都市の母親の育児を支える関係的支援および制度的支援の機能を、両者の相互作用も含めて分析し、現代日本の都市家族を取り巻く子育て支援の実態および課題の考察から、都市の子育て環境改善に向けた施策を検討することにある。

## 2 方法

調査課題は、①夫・親族・ママ友による関係的支援の実態と限界、②国や自治体、企業、NPO、地域組織などによる制度的支援の利用ニーズ、実態および課題である。母親の育児を支える支援は、サポート構造（関係的・制度的支援）とサポート機能（直接・間接・複合サポート）および機能的側面（道具的・表出的サポート側面）で分類し、各サポートについて分析、考察を行った。

## 3 結果

夫や親族、ママ友による関係的・直接サポートには、子どもの世話や送迎、預かりといった道具的サポートと、遊び相手といった表出的サポートがある。一方、関係的・間接サポートには、家事や育児の助言、情報提供といった道具的サポートと、悩みの相談・共感相手といった表出的サポートがある。しかし、夫のサポートは非確実・時間限定的であり、親族サポートには世帯差が、ママ友への託児には抵抗感がみられる。関係的支援を補完、代替、促進する制度的支援の直接サポートでは、とくに、一時保育に対するニーズが高く、臨時型と定期型で利用目的に違いがみられたが、料金や立地、定員、保育の質などの問題が指摘された。制度的・間接サポートでは、子育てサロンが、ケアの場や情報の提供、専門相談など、道具的・表出的両方の支援を提供しているが、地域間でサービス供給に差がある。

関係的・複合サポートには、地域住民やママ友が行う子育て支援ボランティア活動などの道具的サポートや、関係的支援者による機会や場の利用といった表出的サポートがあるが、制度の利用には意識面の課題や逆機能が指摘できる。また制度的・複合サポートは、関係的支援を促進する子育てサロンなどの道具的サポートと、地域社会における子育て支援の奨励などの表出的サポートがあるが、制度利用環境の課題改善が必要である。

## 4 結論

少子化都市札幌においても、母親たちは夫・親族・ママ友からの自助と互助を得て育児をしている。しかし、関係的支援には様々な限界があるため、母親の育児負担の改善には、これを補完、代替、促進する制度的支援が必要である。とくに、託児や発達教育といったサポートを提供する一時保育や、ママ友関係の構築基盤および支援提供の場となる子育てサロンの役割は大きい。都市の子育て環境改善に向けては、共助・公助・商助による支援分配を念頭に置き、関係的・制度的両支援の機能を相互に促進する複合サポート機能を拡充することが重要である。

## 文献

金子勇，2003，『都市の少子社会—世代共生をめざして』東京大学出版会。

松田茂樹，2008，『何が育児を支えるのか—中庸なネットワークの強さ』勁草書房。